

【経営企画部長まとめ】

2009年度を振り返れば、国際的にはコペンハーゲンでCOP15(国連気候変動枠組条約第15回締約国会議)が開催され、2013年以降のいわゆる「ポスト京都」の枠組みについての議論が行われました。国内的には、政府から「2020年度までに1990年度比で温室効果ガスを25%削減する」という中期目標が出され、省エネルギー法の改正が行われる等、大きな変動の一年であったと感じています。

現在、当社では、2008年春に発表した「グループ経営ビジョン2020 -挑む-」に掲げた目標の達成に向け、さまざまな取り組みを進めているところですが、さらに環境を重視した経営を推進するため、2010年7月、「環境経営推進室」を設置し、グループとしての環境問題に取り組む体制を強化しました。

地球環境問題は、すでに議論の段階ではなく行動に移す段階であり、JR東日本グループとして、自ら掲げた高い目標に対して、愚直に取り組を進めてまいりたい、と考えます。

また、今回の報告書では、2010年12月の東北新幹線新青森開業を控え、青森県知事をはじめとした青森にゆかりのある方々にご参加をいただき、「地域活性化に求められていることとは?」と題して議論をいただいた内容を掲載しました。さまざまなお立場からのご意見を直接うかがうことにより、あらためて地域の皆さまの期待の大きさと、それにどう応えていくべきかの責任の重さを痛感したところです。

私どもJR東日本グループは、今後とも地域に根ざした企業グループとして、地域の発展に貢献すべく、引き続きグループ一丸となって行動を進めてまいります。



取締役
総合企画本部経営企画部長
一ノ瀬 俊郎